

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300060		
法人名	社会福祉法人 同朋福祉会		
事業所名	認知症対応型 グループホームゆいしん		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1707-2		
自己評価作成日	平成30年5月21日	評価結果市町受理日	平成30年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の身体状況は様々ですが、今その人が出来る事を大切にして、一人一人に応じたケアを行っています。出来る人は毎日声掛けにて、自室の掃除を行ったり、職員と一緒に花壇の水やり・生け花・料理・食器洗いやテーブル拭きを行ったり、自分の役割りが自ずと持てるような支援をしています。日々の掃除や作業も生活リハビリの一貫ですが、それ以外にも、DVDを活用して色々な種類のリハビリ体操、リズム体操、外周の散歩等を行い適度に体を動かすことで身体機能の維持に努めています。毎月外出ドライブを行っています。ご利用者の希望を聞いたり、その方の身体状況に応じて行先を決めたり個別に対応することで誰もが楽しめるような工夫をしています。ご利用者が1ヶ月を通してどのように過ごされていたか、ご家族には毎月お手紙と写真を送り伝えるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は有線テレビを見られることで、地域行事の情報を得られたり、画面に映し出される近所の人や知人を懐かしく思い出す機会にとされています。地域の行事(秋の農業祭、福祉の市、神社のお祭り等)に参加され、古くからの知人とふれあわれたり、拠点施設行事(納涼祭、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会、初釜の会)に訪れる地域の人たちと交流しておられます。拠点施設に訪れるボランティア(コーラス、日本舞踊、銭太鼓、フラダンス、地域の僧侶による法話等)の他、近隣幼稚園から年3~4回の来訪があり、利用者は交流を楽しんでおられます。職員は利用者が笑顔で食事ができるように話しかけられたり、外食時には、一人ひとり好きなものを注文して食べられたり、外のベンチでのおやつタイムなど、食べることを楽しめるように支援しておられます。料理の下ごしらえや味見、盛り付けなどの食事の準備や部屋の掃除、種から花を育てることや旬な野菜の畑づくりなど、利用者一人ひとりの居場所があり、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をして、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	唯心全体としての理念は毎日の合同朝礼にて復唱し事業所内に掲示している。 グループホーム独自の理念についても、職員全体で話し合っ作ったものを事業所内に掲示し意識づけを行い実践に繋げるよう努めている。	法人の理念と共に地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示して共有している。管理者と職員は、理念を意識し、実践につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(農業祭、福祉の市、神社のお祭り等)へは出来るだけ参加するようにしている。 施設行事(法話の会、納涼祭、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会、初釜の会、近隣幼稚園の慰問等)へボランティアとして参加して下さる地域の方々(コーラス・日本舞踊・銭太鼓・フラダンス・近隣幼稚園児、地域の僧侶)とも行事を通じて交流が図れている。 家族や親戚、知人とは面会や電話等を通じて交流している。 また、同施設内の特養・小規模多機能のご利用者とは日常的に交流を図っている。	利用者は、有線テレビを見ることで地域行事の情報を得たり、画面に映し出される利用者の近所の人や知人を懐かしく思い出す機会となっている。利用者は、地域の行事(秋の農業祭、福祉の市、神社のお祭り等)へ参加し古くからの知人とふれ合ったり、拠点施設行事(納涼祭、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会、初釜の会)では参加している地域の人と交流している。拠点施設に来訪しているボランティア(コーラス、日本舞踊、銭太鼓、フラダンス、地域の僧侶による法話等)や近隣幼稚園から年3~4回の園児の来訪があり利用者は交流している。日常的に同施設内にある特別養護老人ホームや小規模多機能事業所の利用者で行き来をし交流している。事業所周辺の散歩時には地域の人と挨拶を交わしている他、家族や親戚の人から季節の野菜や果物、花の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出かける際には積極的に地域の方々や挨拶を交わして交流を図り、認知症の方を理解していただけるよう努めている。また、来訪された方々に対しても同様に認知症の方への理解、支援方法について伝えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を実施するにあたり、職員にその意義を伝え、職員全員に自己評価票を配布し、全員が自己評価に取り組んだ。前回の外部評価で指導していただいた内容については運営推進会議や、職員会議を通じて報告している。 前回の外部評価でご指導を受けた内容を踏まえ目標達成計画を立て改善に努めている。	管理者が職員会議で評価の意義について説明し、評価をするための書類を全職員に配布して各職員に記入してもらい、職員会議で項目について話し合い、意見を聞いて管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて、運営推進会議メンバーに消防署員を増員したり、内部研修で緊急時の応急手当や初期対応の訓練に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設合同の運営推進会議を年6回実施している。事業所の現況・活動内容を報告し取り組みへのご意見を聞いている。また、地域行事の情報を得たり、施設行事の宣伝や参加者を募ったり、情報交換の場にもなっている。 消防署方から災害、火災時の避難等についてもご指導いただいている。	会議は年6回、拠点事業所合同の運営推進会議を開催し、事業所の現状や活動状況、防災訓練、外部評価等について報告し、意見交換を行っている。メンバーに近隣福祉活動員(牛乳配達業)やふれあい三世代会長、消防署職員、民生委員など、メンバーの拡大に努め地域の情報を得たり、法人の行事の紹介や参加依頼を行っている。消防署職員から自立歩行の困難な方の避難方法等について具体的に指導を受ける機会を得ているなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢福祉課や地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議の他にも、電話や直接出向いて相談したり助言を頂いたり、情報交換や協力体制を築く努力をしている。	市担当者とは、運営推進会議の他、介護保険申請や更新等について電話やFAX等で確認したり、事故報告等出向いて直接相談したり、情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議のほか、利用者の入居状況や入居申請等について相談したり、情報交換して連絡を取り合い協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	合同の内部内研修において年間4回は必ず身体拘束についての内容を繰り返し行い、理解を深めるようにしている。 当施設においては、常に玄関や出入り口は開放しており、ご利用者が自由に出入りできるようにしている。	職員は拠点事業所の研修で年4回繰り返し身体拘束や虐待防止について学び、理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックのない言葉かけに配慮しており、気になるところは職員同士で注意しあっている。玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同の内部研修において年間4回は必ず虐待防止関連についての内容を繰り返し行い、理解を深めるようにしている。特に、日常の言葉かけによるスピーチロックについては職員間で注意し合うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、市が開催する権利擁護についての研修に参加し、そこで得た情報を内部研修等を通じて伝えたり、資料を回覧して理解を深め、今後対象となりうるご利用者に対応できるようそなえている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約又は改定等の際には、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、しっかりと説明を行い、理解・納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情の受け付け体制についてきちんと説明し、施設玄関に明示している。毎月家族に手紙でご利用者の様子を伝えたり、要望があればいつでも言えるように手紙に電話番号も記している。それ以外にも、運営推進会議や年2回の家族会でも意見を聞く場を設け、そこで出たご意見や要望は職員に伝え、運営に反映している。	契約時に苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。毎月家族に利用者の様子がわかる写真と近況を知らせる手紙、年2回の家族会や面会時、運営推進会議時、電話、行事参加時等で家族からの意見や要望を聞いている。出た意見や要望は伝達ノートで職員が共有している。遠方へのドライブについて、利用者個人の健康状態を心配する家族からの意見があり、長時間、車に乗る負担を考慮して外出先を決めるなど、今後の対応について検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、伝達ノートに職員の気づきや要望、意見も自由に書けるようにしている。それを皆で共有し、職員会議等で検討している。また、月1回の幹部会議で、グループホームから出た意見・要望・提案を伝え、運営に反映している。	月1回の職員会議や「伝達ノート」で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。出された意見や提案を職員会議で検討し、必要な事項は月1回の幹部会議に提案している。収納棚の設置や危険を伴う出入口の足場の改善等の意見について反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の家庭状況や心身状況を理解し、労働時間や業務内容等働きやすい環境を作れるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や資格取得に向けての研修については、職員に情報を伝え受講できる機会を設けている。 法人研修として外部講師を招いての学びセミナーを年2回開催している。 内部研修は毎月1回実施し、職員一人一人が学ぶ機会が持てるように努めている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供している。法人研修は年2回、学びセミナーとして虐待などについて受講している。内部研修は、拠点事務所合同で施設内研修としてターミナルケア、介護実技(褥瘡予防、体位)、身体拘束・虐待防止、施設環境写真を使って危険予知訓練、消防訓練、感染症予防、救急救命処置、AED使用等について毎月計画的に実施している。出席できてなかった職員には資料を回覧している。介護技術の一部が不得意な職員の意見を聞き、入浴介助は2名で対応するなど、介護技術向上のために職員間で日常ケアについて意見を出し合い、助け合って利用者本位に支援できるよう介護技術向上のために職員全員で協力して取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に様々な施設がある為、それぞれ行き来して情報交換を行ったり、問題点を相談し合ったりし、互いのサービス向上に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学、入所の申し込みの時に、ご本人様の困り事やご要望・不安についてしっかりと話を聞き、気持ちに寄り添えるようにしている。また、当施設を理解していただけるように、案内しながら当施設の特性やサービス内容を丁寧に説明している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学、入所の申し込みの時に、ご家族の困り事やご要望・不安についてしっかりと話を聞き、気持ちに寄り添えるようにしている。当施設の特性やサービス内容についても、きちんと理解できるまで丁寧に説明している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族のお話を聞いたうえで、必要な支援が何であるか、その支援を受けることができる施設についてあらゆる選択肢を提示し、一緒に考えていけるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、暮らしを共にする家族の一員であるという意識で日々生活している。職員とご利用者が互いに教わりあいながら、一緒に物事に取り組むことで、共に支え合い生活するという関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に写真と共に1ヶ月を通じての活動状況やご様子を手紙で伝えている。それ以外にも何か変わったことがあればその都度連絡を行い、ご家族の思いやご意見を聞きながら、支援内容を考えるようにしている。利用者の事を一緒に考え共に支えていくという関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、近所の方や知人の来訪があり、その際にはゆっくりと一緒に過ごせるような環境を整えている。面会に来られた記念として記念写真を撮ってアルバムに綴じるようにしている。外出ドライブの際に、ご利用者の馴染みの場所や思い出の場所に出かけてみたり、ご家族との外出や外泊は積極的に支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人、永代法要をしている寺の住職などの来訪がある。来訪時には写真を撮って思い出づくりや会話のきっかけづくりに活用している。地域の行事で会って会話を楽しんだり地域の有線テレビを見て馴染みの人や場所の話をしている他、自宅周辺のドライブや馴染みの店での地元の人との会話をしている。家族の協力で法事や墓参り、外出、外泊など、利用者一人ひとりが馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、散歩や外出がより楽しめるような組み合わせに配慮している。また、工作や作業など、ご利用者同士が協力しあって行えるよう配慮している。ほとんど寝たきりのご利用者についても、孤立してしまわないように食事は必ず皆と一緒に出来るように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、メール等を通じてご家族の経過をフォローしたり関係性が継続している。当施設の特養に移動になったご利用者については、会いに行ったり、ご家族にお会いした時には困り事や相談にのる等の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にご本人やご家族から聞いた情報や、入所後の日々の生活の中でご利用者が発した言葉や態度をまとめた「私の姿と気持ちシート」を活用して、ご利用者の思いの把握に努めている。 日々の様子を記録したケースダイアリーにご利用者の思いや何を喜び何に不快な思いを感じているかを記し皆で把握するよう努めている。	入居時に、本人や家族からの情報を得ている「入居時の面会記録」や日々の生活の様子を記録した「ケースダイアリー」や「伝達簿」を活用し、職員間で話し合い「私の姿と気持ちシート」にまとめて、利用者の思いや意向の把握に努めている。生け花を好む人、掃除の得意な人、本や紙芝居の読み聞かせが得意な人など、利用者それぞれについて把握している。利用者の「角島に行きたい」との発言から、他の利用者の賛同があり、ドライブで実現している他、ハンドケアを見ている様子から、ハンドケアに興味を持っているのではと職員間で検討し、本人の思いを把握している。「私の姿と気持ちシート」は、1年ごとに検討して作り変えている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、これまでの生活歴や生活環境、サービス利用の経過を聞いて情報収集を行っている。それ以外にも、日々のご利用者との会話や、面会に来られた家族・知人の方から話を聞きご利用者の暮らしの把握をするよう努めている。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状況に応じて、その人に合った1日の過ごし方を支援している。一人ひとりの有する力に応じて、その方が何をやりがいをもって行えるかを把握するように努めている。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや意向、ご家族の要望、主治医の意見等を反映し、職員会議(カンファレンス)にて、ご利用者がよりよく暮らすためにどのような支援をしていけばよいかを話し合い、介護計画を立てている。 月に1回モニタリングを実施し経過をみていき、6か月に1回計画の見直しを行っている。それ以外にも、状態に変化があった時には現状に即した見直しをその都度行っている。	本人の思いや意向、家族の要望を聞き、主治医や看護師等の意見を参考にして、計画作成担当者が中心になり、月1回のカンファレンス(職員会議時)で話し合い、介護計画を作成している。月1回、管理者と計画作成担当者がモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた時にはその都度見直しをして、現状に即した介護家離隔を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、ケアの実践や結果はケースダイアリーに記録している。その中でも、スタッフ間で伝え合う必要のあることについては伝達ノートに記し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにおいて、必要に応じて他のサービスとの連携を図ったり、柔軟な支援に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	そのご利用者を取り巻く地域資源を把握し、それを活用しながら、ご利用者がより豊かな暮らしが出来るような支援に努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ、ご利用者とご家族の希望する医療機関を継続してかかりつけ医としている。受診についても、ご家族のご都合やご利用者の状況に応じて受診の支援を行っている。法人嘱託医をかかりつけ医にしているご利用者については、週1の往診を受けることが出来、その他のかかり付きも隔週の往診を受けている。緊急を要する体調不良等の際は、同施設内の医務室の看護師と常に情報交換している為すぐに対応してもらうことが出来、必要な医療に対応できる。	協力医療機関の他、本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関をかかりつけ医とする人は週1回、その他のかかりつけ医からは2週に1回の往診がある。他科受診は家族の協力を得ている他、本人の状況に応じて事業所が受診支援を行っている。受診結果は家族には月1回の手紙や必要に応じて電話で報告し、職員間では「伝達ノート」で情報を共有している。緊急時や夜間は協力医療機関と連絡を取り、拠点施設の医務室や看護師と情報を共有して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の合同朝礼の際に、ご利用者の体調不良や気づき等を同施設内医務室の看護師に報告している。必要に応じて指示を仰ぐこと出来、早期に適切な対応が出来る連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際には、入院中のご利用者が安心して治療に専念でき、また入院を機に認知症が進行しないように定期的にお見舞いに行き声掛けを行うようにしている。お見舞いの際には病院関係者に情報聞いたり、早期に退院できるように話し合いを行っている。日頃から、各病院の地域連携室との関係作りを行い情報交換も行っている。</p>	/	
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、重度化した場合の移設を含めた事業所として出来る対応についても説明している。実際に状態に変化が起って来た際には、支援方法や今後の事についても早い段階から家族に相談を行い、かかりつけ医・施設看護師・職員間の意見も共有しながら、チームで今後の支援方針について取り組んでいる。</p>	<p>契約時に移設も含めて、重度化した場合に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には早い段階から家族と相談し、かかりつけ医や拠点の看護師の意見を聞いて家族と話し合い、方針を決めて共有し支援に取り組んでいる。</p>	
35	(15)	<p>○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>事故やひやりはっとの事例が生じた場合は、その都度報告書に記録し、伝達ノートにもコピーを貼付し全職員に回覧している。再度事故が起きないように、一人一人の状態に応じた対応策を職員全体で話し合い取り組んでいる。応急手当の基礎知識や緊急時の対応については、内部研修にて看護師や救急救命士から学ぶ機会を設けたり、それ以外にも個別に管理者が指導を行っている。</p>	<p>事例が生じた場合は、その日の職員でヒヤリハット・事故報告書に記録し、「伝達ノート」にコピーを添付し、全職員に回覧している。職員会議で再検討し、対応策を介護計画に反映させひとり一人に合わせた事故防止に努めている。幹部会議に報告して必要に応じて拠点施設の事故防止委員会で検討している。緊急時の初期対応や応急手当については、拠点事業所合同研修で看護師や法人職員(救急救命士)から学んでいる。管理者は、緊急時の対応について、どんなことも事例が生じた場合は現場を見て学ぶように職員に指導している。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。</p>	<p>・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の実施継続</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防署の協力を得て、施設合同の防災訓練を実施している。訓練では、実際に利用者も参加して、通報、避難誘導、消火、防災設備の確認等も行っている。運営推進会議や家族会の際に、次回の防災訓練についてお知らせし、実際に訓練にも参加していただけるよう働きかけを行っている。地域において法人の他施設と、災害時の対策については連携が取れるよう定期的に話し合いが行われている。	マニュアルがあり、年2回消防署の協力を得て、拠点施設合同で昼夜を想定し(通報、消火、避難誘導、防災設備の点検)を利用者も参加して行っている。消防署から自立歩行の困難な方の避難誘導の方法について具体的な学び実施している。家族や地域の人へ参加の案内を行っているが、参加が得られていない。法人の他の施設と協議し地域との連携協力が得られるよう働きかけについて協議しているが協力体制を得られるまでに至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩としての尊敬の念をもって接するようにしている。時に、言葉かけや対応がなれ合いになり過ぎている時は、その都度職員同士で注意し合ったり、自分の言動を反省・見直すように心がけている。	職員は法人の研修で学び、利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって接し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところがあれば、その都度管理者が注意したり職員同士で話し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用者が自分の思いや希望を自由に言えるような環境や人間関係を築き、自己決定が出来るように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、ご利用者の体調や精神的な面にも配慮しながら、一人一人のペースで生活できるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が使い慣れたしんだ化粧水や、身だしなみに必要な道具を使用し、出来るだけ自分で鏡の前で身だしなみを整えられるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日から土曜日までは当法人のキッチンセンターからの配食を利用し、それをご利用者のその日の体調や状況に応じて食べやすい状態にしたり、温め直したりして提供している。 毎日の朝食と日曜日の食事については事業所内において職員が手作りにしている。その際には、ご利用者のリクエストを聴いたり、季節の野菜やご家族等から頂いた食材などを使って調理している。 誕生日や行事・お出かけ等の際には配食は中止し事業所内で調理したり、お弁当や外食をして好きなものを選んで食べる等臨機応変に対応し、食事の楽しみが持てるように支援している。 調理の際には、ご利用者も下ごしらえや盛り付け、味見等を職員と一緒にしたり、調理以外にもテーブル拭きや食器洗い、お茶つぎ、下膳など出来る協力して行っている。	月曜日から土曜日までの昼食と夕食は法人の配食を利用している。朝食と日曜日の食事は、利用者の好みを聞いたり、季節の野菜や家族等からの差し入れの食材をつかって、事業所で作っている。」利用者は下ごしらえ、味見、テーブル拭き、盛り付け、配膳、お茶つぎ、下膳、テーブル拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。職員は1名が検食、他の職員は見守りをして、利用者の得意なことを話題にし「トマトの水やり」や野菜の名前などを言い合い、笑顔で食事ができるように話しかけている。おやつづくり(白玉団子、ホットケーキ、たこ焼きなど)、行事食(ひな祭り、敬老祝賀会など)、短k上日には本人の食べたいものやデザートを選んで食べたり、家族の協力を得ての外食等、食事に変化を持たせ、食事が楽しむことができるように支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの身体状況に応じて食べる量や栄養バランスを考えて提供している。食欲がなく十分な食事が摂取出来なかった時は、本人が食べやすい物や高カロリーのもので補っている。 水分摂取には特に注意し、毎食後・入浴後・作業後、10時・15時・19時にもティータイムとして水分をすすめている。			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝る前と起床時には必ずご本人に応じた口腔ケアを実施している。それ以外にも、食後は緑茶を出し口腔内が清潔になるように工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人一人の排泄パターンを把握し、無理にトイレ誘導するのではなく、ご本人の自尊心に配慮しながら言葉かけを行い、排泄の自立に向けた支援に努めている。 ほぼ寝たきりの状態のご利用者においても、ご本人が訴えた時にはトイレに誘導する等出来るだけオムツでなく自力で排泄できるように支援している。居室内で排泄する場合には臭気や羞恥心にも配慮して、速やかに排泄物を始末するようにしている。	排泄チェック表でパターンを把握し自尊心や羞恥心を損なわぬよう、利用者ひとり一人に合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、必要に応じては薬でのコントロールを行っているが、飲食物の工夫、体操やマッサージ等も行いながら予防に努めている。	/	
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日曜日以外は毎日行っている。本人の体調や希望に応じて時間は特に決めず臨機応変に対応している。入浴をしたくないと訴える時には無理強いせず、時間において再度声掛けしたり、清拭や部分浴に切り替える等工夫している。 入浴の際には、職員とゆっくり話をしたり一緒に歌を歌いながら湯船に浸かる等、楽しんで入浴できるように支援している。 入浴以外にも、排泄の失敗で汚染した時にはその都度シャワー浴を行ったり、水虫や湿疹がひどい方には入浴以外にも清拭や部分浴を行い、皮膚の清潔を保つようにしている。	入浴は日曜日以外は毎日可能で、時間は特に決めず、本人の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。入浴したくない人には無理強いせず、声かけ等を工夫するなどして週3回は入浴できるよう支援している。職員は状況に応じて2人で対応している。入浴しない日は足浴や清拭等で対応している。職員とおしゃべりや歌を歌って楽しんだり、柚湯、入浴後の保湿剤を使用するなど入浴を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況、生活習慣を把握し、安楽体位で休息できるようにクッションを使用したり、気持ちよく眠れるように定期的に布団干しやシーツ交換を行っている。ほぼ寝たきりのご利用者にはエアーマットを活用するなど安楽に工夫している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法がいつでも確認できるようにしており、その人に応じた服薬の支援と症状の変化の確認にも努めている。また、飲み忘れ・誤訳が無いように、必ずダブルチェックを行うようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格、出来る事を職員が把握し、それぞれが進んで自分の役割を持てるように支援している。また、ご本人の生活歴から張り合いをもって行えることを見出し、活躍できる場面を作る支援も行っている。施設内の行事や地域の行事に参加したり、外出においてもご利用者の希望で行先を決めたり、楽しみや気分転換が図れるようにしている。	拠点施設行事(納涼祭、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会、初釜の会、近隣幼稚園訪問等)や拠点施設に訪しているボランティア(コーラス、日本舞踊、銭太鼓、フラダンス、近隣幼稚園児の遊戯や歌、地域の僧侶による法話等)との交流、新聞や雑誌を読む、有線テレビを視聴し地域情報を得る、本を声に出して読む、季節の壁面飾り作り(折り紙、ちぎり絵、貼り絵)、生け花や種から花を育てる、畑づくり(トマト、キュウリ、ゴーヤ、しそ等)、調理(味付け、下ごしらえや味見、盛りつけ、巻きずし等)、居室の掃除等、利用者ひとり一人の居場所があり、活躍できたり、楽しみごとのある場面をつくり、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、外に散歩に出たり、プランターの水やりや草取りは自由に行っている。月に1回は外出ドライブを行っているが、ご利用者に行きたい所を聞いて行先を決めたり、その方の身体状況に合わせて個別に出かける等の工夫を行っている。 家族との外出や外泊では、事前にご家族に最近の体調や様子をお知らせして連携をとり、墓参りや法事への参加、家族との外食、自宅に帰って思い出の品を取りに行く等が、スムーズに楽しんで出来るように配慮している。	事業所周辺の散歩や食材の買い出しなどで、日常的に外出している。プランターの野菜の水やりや草取り、外出ドライブを月1回(角島、ほたる街道、みのりの丘、於福の道の駅、東行庵、日本海を見る、入院先へ見舞い等)、花見(桜等)、家族の協力を得ての外泊や、墓参り、法事への参加など戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じて、またご家族の意向をお聞きした上で、ご本人がお金を使えるように支援している。現在、ご自分でお金を所持している方はおられず、全員の方が家族又は事務所に管理している。外出等の際には、ご本人の預かりの小口封筒から自分で支払いをするという支援も行っている。</p>		
52		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>以前は携帯電話を所持されているご利用者がいたが、ご本人の希望によりご家族が管理されている。ご家族からかかってきた電話については、ご本人に取り次ぎゆっくりと会話ができるように支援している。</p> <p>お手紙については、読むことが困難なご利用者においては、職員が代読したり、送られてきた写真やはがきを部屋に掲示するなどして、ご利用者がいつでも見ることが出来るように支援している。</p>		
53	(23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は定期的に換気を行い、温度・湿度に注意しながら心地よく過ごせるよう努めている。季節感を感じてもらえるように、その時々職員や家族が持ってきた花を飾ったり、壁には季節ごとにご利用者が作成した作品を飾っている。共有スペースは、ソファを置いてゆったりとくつろげるようにし、キッチンから調理の様子や食べ物の匂いが感じれる等家庭的な雰囲気になっている。</p>	<p>居間兼食堂の入り口には利用者の生け花作品を飾り食卓や洗面所などには家族や親戚の人、職員からの差し入れの季節の花を飾っている。窓には利用者が育てているゴーヤのカーテンが見え、壁には貼り絵や折り紙、ちぎり絵など季節毎に利用者が作成した作品を飾り季節感を感じることができるよう工夫している。台所から調理の様子や匂いを感じることができ、生活感がある。食卓やテレビの前にソファを置き、広い廊下にもソファを設置し利用者は思い思いにくつろぐことができる。温度や湿度、換気に配慮し居心地よく過ごすことができるよう工夫している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士が互いの居室を自由に行き来したり、一人ゆっくりと過ごしたい方は居室で静かに過ごせるよう配慮している。共有のフロアのテーブルの席もご利用者同士の関係性を把握し居心地よく過ごせるように配慮し、臨機応変に席替えも行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご利用者の心身状況に応じてご本人やご家族とも相談しながら決めている。ベッド、棚、机、椅子、衣装かけ、テレビ等、自由に使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地の良い空間で過ごせるようにしている。	ベッド、机、テレビ、回転椅子、衣装掛け、位牌、遺影、仏壇、時計、衣類、日用品など使い慣れたものを持ち込み、家族との写真や面会時の写真、本人の作品などを飾って居心地の良い空間を作っている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレの場所が分からないご利用者が迷わず室内を行動できるように名札を表示している。ご利用者が躓いたり転倒が無いように不要なものは置かないようにしたり、ご利用者が口にして危険な物等は目の届かないところに置く等安全に配慮している。		

2. 目標達成計画

事業所名 認知症対応型グループホームゆいしん

作成日：平成 30 年 12 月 19 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	昨年度、救急時の対応(AED使用、心肺蘇生法)の実践研修を2回しか行えず、全職員がまだ自信を持って、緊急時対応にあたる程には至っていない。	実践を伴う救急時の対応を全職員が習得する。	来年度の事業計画に年4回の救急対応の実践研修を組み込む。(うち1回はGH独自で行う)	1年間
2	36	災害、防災における協力体制が法人内では確立されているが、施設周辺地域との連携、協力体制が築けていない	施設の災害、防災時の地域との協力体制の確立。 施設の防災訓練に地域の方に参加して頂く。	理事会を含め、本部(法人)と話し合い、ゆいしんの近隣地域との災害時の協力体制を築いていく。 施設の防災訓練の際には近隣の方にも事前に呼びかけ参加をつのる。(案内状を配布)	1年間
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。